



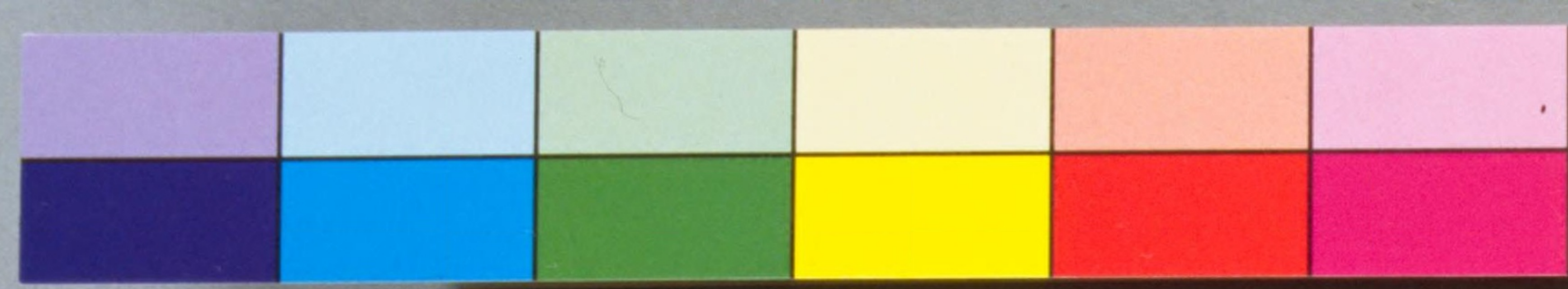
そ
10
19

6-4
2-1

栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 03- 001

国立国会図書館





讀州白峯所謂綾ノ松山

東寺宝持坊著全八巻アリ

郭公ノ玉ツヤ

和語私臆抄云高野ニ有葉如此一々ニ巻タリ其巻タル中空也虫ノ巢ニモ

非ス皆横ニ巻テアリ薄キ常体ノ葉ナリ高野ノ僧ニ問ニ種ノ木ノ名ニ非ス高野ノ奥熊野諺ニ家毎ニ諸木ノ葉如此巻時鳥出ル時鳥此葉ヲ合ミ散ス故此名アリト云ヘリ余カ見シ葉ハ此國ノ如シト云貞幹按スルニ時鳥ノ玉章古名綾ノ松山也讀州白峯ニテハ時鳥來リ嘴ニテ掠ノ葉ヲ如此ニ結テ去ルト云ヘリ然ルニ蘭山ノ説ニ時鳥ノ玉章トテ鳥ノ作為スト云ハ誤ナリ虫ノ巢ナルヨシ是亦一隅ノ見ニノ捨ヘカラス野州日光山ニ鶯ノ経マキト云モノアリ鶯音ヲ止ニトスルマニ樹葉ヲ尽ク巻テ經卷ヲ捲タル形ノ如シコレヲ入見レハモハヤ鶯声ヲ止ルト云ニ果ノ其詞ノ如シ文政初年芝陽貞幹並テ秘藏セルヲ一箇贈示サル樹葉ハ不詳其葉ヲ堅ク巻テ中空ナラス然レハ虫ノ巢ニモ非ス一種ノ奇物ナリ貞幹ノ説ニ私臆抄元録ノ項ノ書既ニ虫巢ナラサルヲ記親ク見ルニ讀州主人ノ説モ亦然リ



栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 03-002

国立国会図書館





カクレサト コトムシ
 チヤタテムシ 氏云胡麻子ヨリ小ナリ
 フル障子ノ紙上ニ有テ吻邊ノ九キハチニテ敵テキラナス多キ時
 ハ兩声ノ如シ夏秋蒸暑雨湿ノ時葎盛ニ声ラナス風透ノ處ニ
 不生

唐李石續博物志云人家有小虫至微
 而響甚尋之卒不可見号曰稿其大如半
 胡麻形似雀婦有兩角白色振其頭則
 有聲子孟唐朝作賦比之鬼魅又明陳留謝
 肇湖五雜俎云浙中郡齋嘗有小虫似病
 蟬而小如針尾好緣紙窓間能以足敲紙
 作聲靜聽之如滴水然跡之軌躍此亦
 蠹類之類歟



蝻 尔雅 ヲムシ 和泉 ヲムシ 備前 コムシ 京 ホリ 仙臺
 一名強畔一名米虫 山堂肆考穀狗正字通謂之蝻子即此米中小黑虫也
 コクウサウ 江戸方言
 正字通云今穀中小黑虫小羽穀陳浥則產俗謂之穀蝻蝻之蝻宜从占齊民
 要術穀虫云野蝻即蝻也

以顯微鏡
 可見大如
 此



蒲黃虫

葉ニシテ白ク通徹ス老
 スルモノハ琥珀色ナリ大サ
 ケレノ五分一ナリ



鼠婦 ラメムシ 俗ニ云ワラシムシ 湿化ノ處自然ニ生ス是亦顯微鏡ヲ以テ
 寫モノナリ





狗蟬虫 此虫好緣龍眼樹上大如小蟬麻色
有甲氣甚其溺能爛人肉

又按帝京景物畧臭椿
上生一種臭名椿象觸之
惡臭射鼻者即此物

俗名 ホウハンニウ カウラムシ
カタキス
會津方言 バイフクリン



山ガマス
又云カラビリユ

戊午年八月十日自取
寫之黃栢ノ枝上ニ
アリ一種ノ野蚕ノ繭
ナリ

琵琶蟬

亦蟬之類好集龍眼樹
身形如琵琶色青綠而
有赤黃斑久不能鳴



右ニ說出高要縣志此ニ異國
唐山人所圖者也雖不知其當
否姑載于此俟君子高詳云

ビワムシノ属

鼠麴草ニ能ツク
蟲ナリ



水黽

チヤンクムシ 甲州
アミホリ
川クモ

此者有毒殺
雞犬長寸許四
脚群游水上
水涸即飛亦
名水馬高要
縣志云水遊
即身如米而
長六足立水
面与波上下
即指此物
而謂之六
足當作四
足



尾九クウスク
團扇ノ如シ

蚊

蚊 一名 写字虫 細目蚊母虫
水スマシ ノ、シムシ イロハムシ
ミコノマイ 備中 ゴキアライ 周防

打拳虫 子子魚也クロホウアリ

甚小者虫目
鏡ニテミル図

三才圖會云子
子一名釘倒虫
奥州方言テン
カラムシ 備前ニ
リアリムシト云





赤ホウフリ 春末蚊ニ化ス色赤キミ景ニテ人ヲ蝨ス
 虫目鏡ニテ見ルニ其眉毛中ニ小虫アリワクモノ如ク捷趨
 ス一奇事ナリコレ魚鱗巢於蚊睫ト云モノ恐クハ此類ナラン
 ノミ



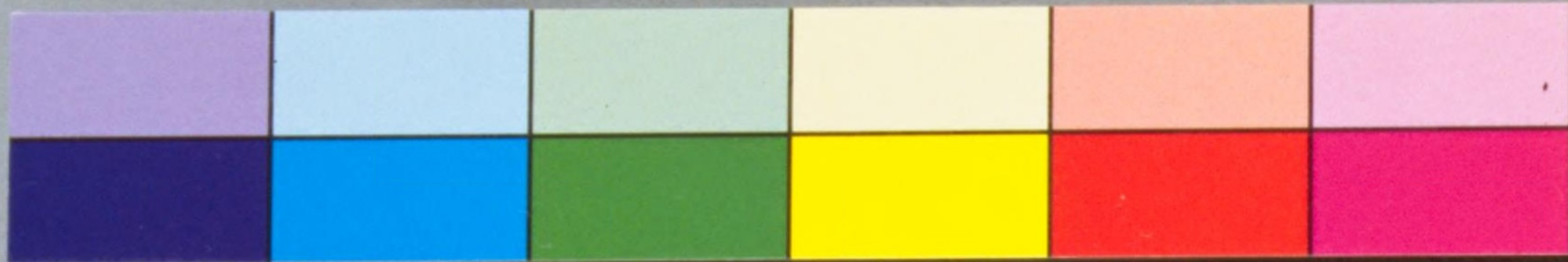
蛸螺

尔雅翼——水中小赤虫
 莊子所謂還野者藏沙中作穴如針
 孔
 赤ホウフリ金魚ノ餌ニ專ラ此モノヲ用
 ス頭微鏡ニテミルニ鬚多ク頭状恰モ画
 龍ノコトシ

蛸蟻

尔雅帽蟻井中小蛸蟻
 赤虫一名子子尔雅翼今水中小赤
 虫無脚其細如縷長二三分細沙中
 有穴如針孔俗呼沙虫





白蟻 ハアリ ハチアリ 尾州
 羽ノ生セサルヲ筑前ニテ
 ドウトヲシト云フ
 春月快晴ノ白ニ羽化
 シテ出飛フテ甚多シ
 遠望雲烟如シ其飛
 フテ高キテアタハズ風
 吹落サレテ地ニ下リ即チ
 翼ヲ腕ノ地上ヲ行キ
 遂ニ虎蟻ノ食
 トナリ蛛網
 ニカリテ
 終ヲ全クセズ蘭山云フ此モノ大ナルハ
 長サ四五分ナルモアリト未ク如此ノ
 大ナルハ見ズ



蚊ノ伯母



蚊ノ一種最大者水辺汝土中ニ生スル長キ蛆ノ化スル
 処ナリ熊蚊ト云フ筑前ニテ蚊ノ伯母ト云ヘルヨシ大和
 本草ニ云ハリ江戸ニテ蚊ト云フト云フ人ヲ吮ハズ

蠍蟪一種 朽木ノ穴ニ入り 葉ヲ結フ



蚊ノ伯母





六月十日取之コレ又蚊トシボウノ類ナリ
 羽黒クスク背ハサ、ベニ色光アリ
 足ノサキカ、ハ、イロ
 羽青キニ、エ、ン、ジ
 イロノ光アリテツヤ
 ヨシ頭黒トヒイロ



一種蚊巨大ナル者今ヲ螫スヲナシ俗名蚊ノ伯母又云
 カトシボウ両翼ノ下鼓槌ノ如キモノアリコレヲ剪去レハ
 飛テナリ難シ

偶聞金川鎮記云金川無蚊蚋間有二飛声覺
 然大如蜻蝶不螫人乃知金文蜻北征
 錄中紀元故都處有蚊如蜻蝶信然
 嘗撲獲一枚豹文十脚頭有黑翎如
 箭羽戲贈諸書藉中以爲他日
 佐笑



蚊一種脚長セイ高シ蚋ヨリ其毒
 甚シ竹藪ヨリ出ル脚黒ク斑ナシ

蚊一種四脚者人
 ナ吹ハス

蚊一種嘴辺有屑如花九月味割不
 然另種之者又有青白色者俱不害人



蚊子ヲミガ



一種赤ク羽褐色ノ紋アリ
 四月頃蚊ノ出ル初ニ出ツ



蚊ノ類九月末採ル土中ニ生スル
 長キ子ヲ其ノ如キ虫脊ワレテ此
 虫出ツ飛形如此全形柔ミシテ
 トレハ脚モゲ易シ



シト蜂類ナリ衣裏ニ
 入レ肌ヲ螫ス其毒
 甚シ

金剛鑽一名没子 和名ヲト
 本網ノ蠟子ナリ形蜂ニ
 似テ一分許黒光アリ
 昼出夜伏ス人ヲ嘯ハ痒
 腫教目瘡ヲナス毒虫ナリ



浮塵子 ヲニカカツボ土州
 又カク薩州セリ雲州肥前
 簷下群飛ス一上一下人ヲ香ツク状如シ
 或ハ旋飛テ磴状ニ似タリ人以テ兩晴テ
 占フ童語ニカツボノモチツキト云フヨク人
 耳目ニ入ル城州淡川辺曇天ナレハ此虫群
 飛ス遠望烟霧ノ如シ人行ヨレニアハバ
 目鼻ニ入り甚害ヲナスモノナリ

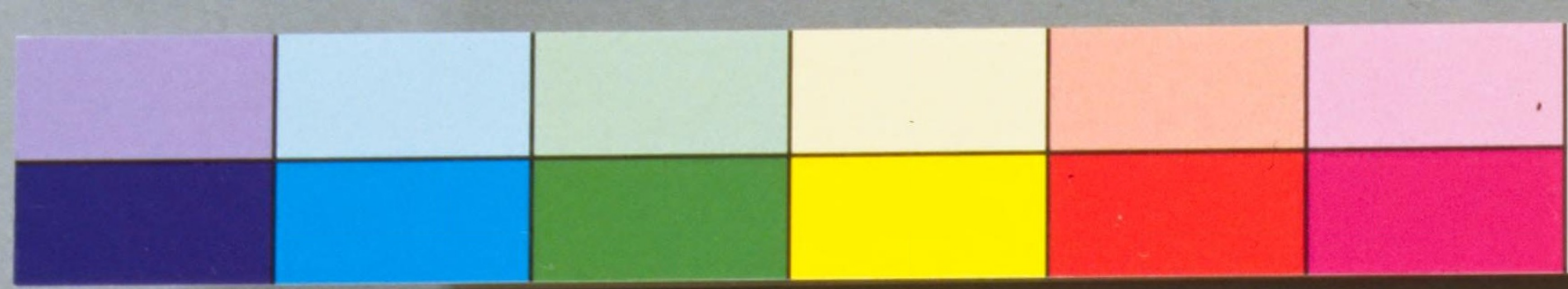


障子ハチ障子ニツキテ羽ヲ鳴ラズビリビリ
 ト云フ羽ヲ去リテ見レハ蟻ニ似テ長大ナリ
 人ヲ螫サズ無能ナルモノナリ腰ニスキトラル
 処アリ蜂ト名



クモト蜂ニ非ス
 蠅ノルイナリ





花蚤一種 大サ蠅ニ有シ七
八月草花ニ着テ香露ヲ吸フ



虫 異品 三月

身ニ毛アリ 金色ニ光ル 毛銀ノ如ク白ク

光モアリ

飛テ早シ

嘴長ク蚊

如シ牛馬

ニ付テ血ヲ

吸フ又人ニモツク

一種

三月海棠及ヒ梨花ニ着テ花露ヲ吮モナリ 羽異ヲタ
ミテ枚如シ 捕テ耳ニ近レハ羽ニテ声ヲナスヒナリキノ如シ

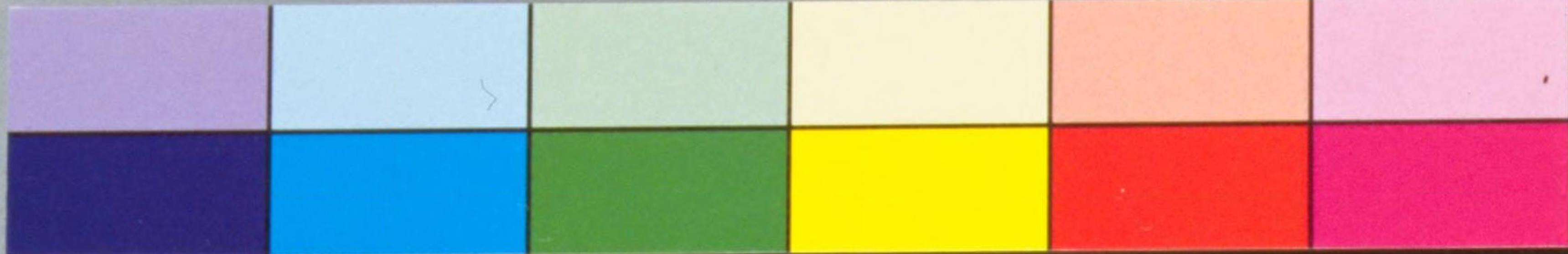


ミラワシ虫



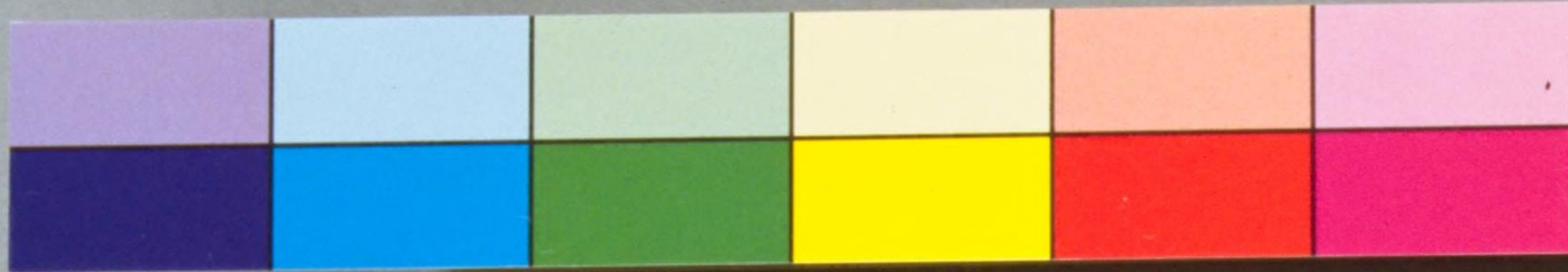
ミヨヤ





蓼真虫 文化丙子四月六日
 カマエビノ奥上ヲクノ向フノ川フチニテ取ル
 火上炙食フニ香美ナリ小兒ニ餌シメテ脾胃勞
 瘦ヲ治ス並ニ殺虫ス此モノノ右ニ出ルモノナシ
 好釣癖ノ人寒月野ハ餌トシテウヅル
 ヲ釣ニ用フ





蜂ニ羽化セントスル前ニエビツルノカラ腐
朽シテ孔一ツク其孔ヨリ蛹半分出カ、
リテ殻ヲ残シ蜂ニ羽化シ出ツ其氣自ラ
通徹メ自ラ腐テ穴敷ラテスカ知ルヘカラス
造化ノ妙言外ニアリ
右ノ蘆葉與五月末蝮蟄ニナリタルヲ
西域 御前ニテ頂戴ス養フテ廿日ホド
ニテ黒蜂ニ化ス常ノ蜂ト違ヒテ腰ホソ
カラズ形小ニシテフトツナリ螫スヲ解スヤ
試シテ蜂ニ羽化ステ六月土用入ノ時分ナリ
往年小半年モ紙ニ包ミテ匣中ニ貯置テ
忘却セシマリ搜索シテ出シ見ルニ存活
自若タリ至テ性ノツヨキモノナリ

土蜂

一種黒色ニ淡黄色ノ
横紋アリ三四月土ニ
孔ノ入ル



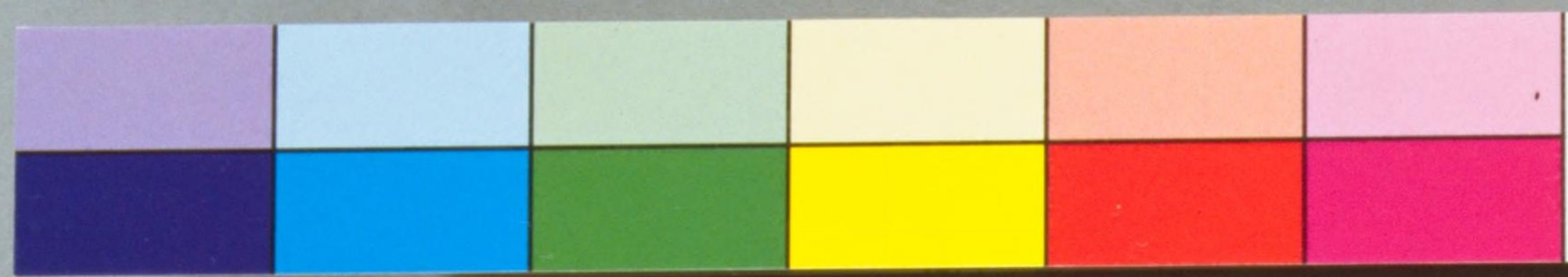
甲申五月廿日蛹ヨリ脱メ出モノ大ク圓如シ羽ヲビク
ト鳴ニテ動ス羽ニ粘アリテ蛾如シ形ハ蜂ニ異ルトモ
羽トクト開カズニテ又蜂ニ似
タリ螫トコセズ又
アルトモニシテ
飛ブトナシ此蜂
出ントスル前ニエ
ビツル皮上自ラ
孔ヲ開クヲミル此
蛾モ破レ及ハズ
シテ自ラ出ル自
然ノ妙ト云ヘシコ
理外イニメ不可
測イト云ベシ
コレヲ自ラ養テ
其妙ヲ知ルハシ



クマバチ 又云スバメバチ

形大而入花中吸精液若人耳邊來時起声
雄壯可怖者也捕之螫亦可怖之甚也詩小
雅卷髮如蠶毛傳云尾末似婦人髮末曲
上卷然者即是



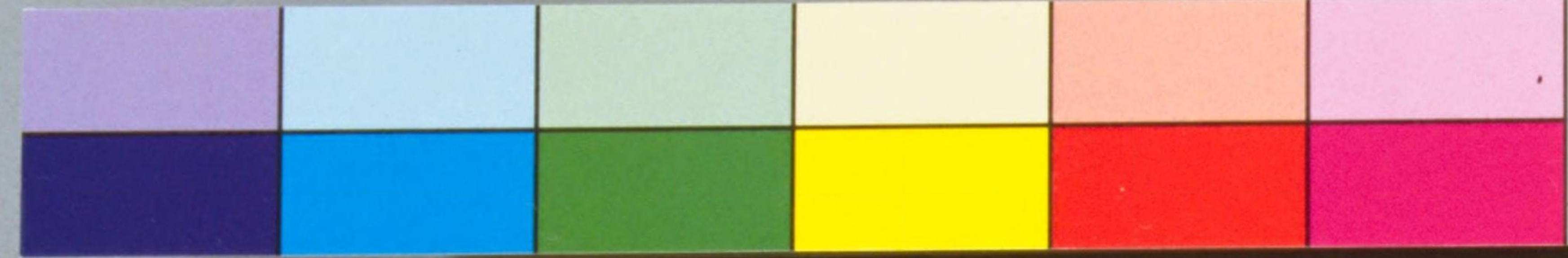


クマ蜂ノ類七種

栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 03-012

国立国会図書館





馬尾蜂ノ類五種

尾ニ三本ノ針至テイカメシク見ユレハ棕毛ニ似テシナレテ
針ニアラス子ニ觸ルト虫ハサスヲラセズ



莫予其并蜂

虎頭蜂 秉性奇方 ヤマハナ

山中木石上或ハ寺院簷下ニ巢ヲ作ル

円長大小一般ナラズ大ナルハ二尺

ニ至ル褐赤黒白ノ斑アリテ

卷雲文ヲナス外皮ヲ破

見レハ中ニ巢ヲ作ルノ数

層ヲナス薬用ニ供スルニ由

露ノカリタルヲ宜シトス故ニ

露蜂房ト云フ



竹蜂

竹葺即ヲ中央ニ留メ両頭ニ孔ヲ開キ回ノ如クメ簷頭ニ束挿メハ不殘
蜜ヲツメ卵ヲ其中ニ養フ蜂ハ蜜蜂ノ如クニメ小ナリ後ニ卵大キナレハ



蜜乾キテ黄粉トナル河野良以此蜂ノ窠中ノ蜜ヲ試シニ甘美ニメ淡シ同
人予ニ贈ル因テ直ニ因スル処ナリ此窠ヲ作ルニ似我ノ声ヲナス亦蠟蟻ノ類ニ
シテ小ナルモノナリ

蠟蟻 トクリハチ 七八月ノ頃蠟蟻ニ似テ小ナル蜂土
ヲ用テ窠ヲ造ル 播垣石砦等ニ粘着スル石榴実
状ニ似タリ又陶器形ニ似タリ故トクリハチト云蠟蟻ヲ尋
来リテ窠中ニ納ルト七八個ニメ其口ヲ閉ス紙ヲ帖塞ス
ルカ如シ是已カ子生育ノ際ノ痕ニ充ルナリ破看レハ
蛆ノ如キ者一ツアリ米粒ヨリ小ナリ日ヲ重テテ漸ク
大ニテリ黄白色後ニ蜂ノ形ニナレ褐色モノ黒色ニナリ
テ穴ヲ咬破リテ出飛去ル其子大ナルニ至ル迄ニ蠟蟻ノ
津液ヲ自然ニ吸取ルナリ皆數個ノ蠟蟻枯槁スルニ至
レハ蜂子漸ク長大ニ至レ一種小ツキ蠟虎數個ヲ竹筒中ニ納テ
其孔口ヲ土封スモナリ俱ニ其子ヲ糞ニメ已カ類トスレニ
非ス似我ノ声ヲナレテ他虫ヲ含来ル人々

蠟蟻有子螺蠟蟻履之



△見ルニ就テ此説ヲオス綱目珍説ニ
詳ニ并スル所ノ如シ





土蜂



土蜂窠



蟻蜂作ル処ノ窠ナリ窠中数
隔ヲナス其一隔
ニ子アリ



トクバチノ窠
窠ノ付タル木枝ヲ
ハナシタル因ナリエノ
厚カ一分許質堅
シ備後方言ヲシゴ
ロウト云此蜂此窠
ヲ結スニ似我ノ声
ヲナサズ因テ名クル
ヨレ蘭山云ヘリ

本網土蜂窠土ノ一條アリ即是





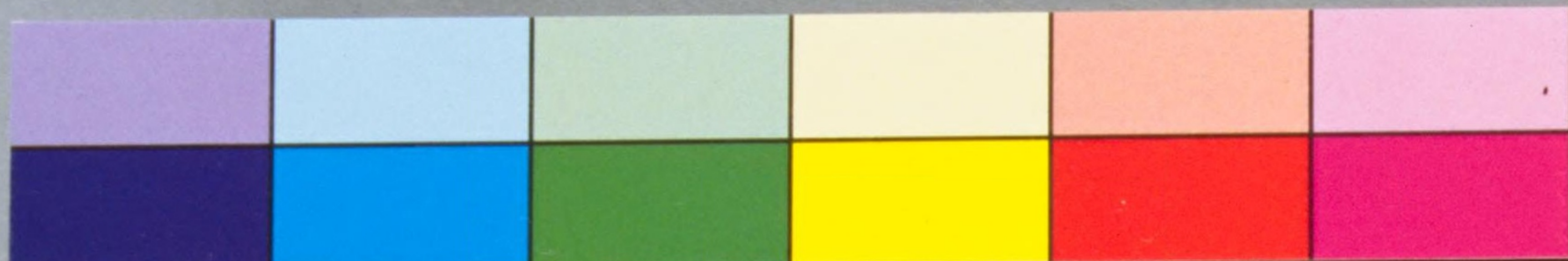
土蜜蜂

野州塩谷郡上塩原福
和田戸村山中有温泉处
産之



土蜜蜂一種





蠮螋詩云螺贏再雅云蒲蘆俗呼土蜂
啣泥於人屋及器物邊作房呪螟蛉以成
其子故中庸
以政譬之言
其速育也
鎮江府志

蜘蛛蟻蝮又尺蠖ノ
類此ジバチノ状ヨリ倍ニ大ナル



蠮螋和名ジバチ
之孔メ入り蜘蛛ヲ
引入テ食フ似我ノ
ト兎シ啼テ我子ニ
化スト云フモ夏
ナリ



モノヲ巴カツ巢ニ穿入ルニ口ニテ故リ手ニテ
クヌガルモノニ似タリ忽然トメ醉カ如ク手足
麻木スト見ヘテ動クヲ能ハス遂ニ之レガ為メ
擒セラル人アリ穿ヲ追去シムレハ一度去ルト異
又来リテ元ノ如ク穿去ルルニ蜂ヲ敵キ逐去シメテ冷水
ヲ濯キ陰処ニ置ケバ穂生シテ遁去ル往年蟻蝮ヲ見込ニクルヲ斯ノ如クシテ助ケレテアリ

好テ土ニ孔メ入ル内ノ細土ヲ含出テ
其傍五六寸ハナレテ置ク土中ニ巢
ヲ作ル蜘蛛或ハ螟蛉
ヲ含ミ来テ吾子ノ
餌トス下ノ箇ハ即
チ土孔ニ入ル形ナリ



チガ蜂ニ種
人ヲ螫セバ毒甚シカラズ





ベツカウ蚊



シガバチノ類
尾丸ノ針ナシ



蠅虎 臺灣府志

其色ト虫ニ似タリ好テハイヲトリ持テ飛ヒ口ノ
刺テ螫シ汁ヲ吮フ俗ニシホウリト云フ此類ニ



尾白シ

シホウリ
此モノ蠅
ヲトリ液
ヲ吸取ルモ
ナリ人ニ
就テ害ヲ
ナサズ



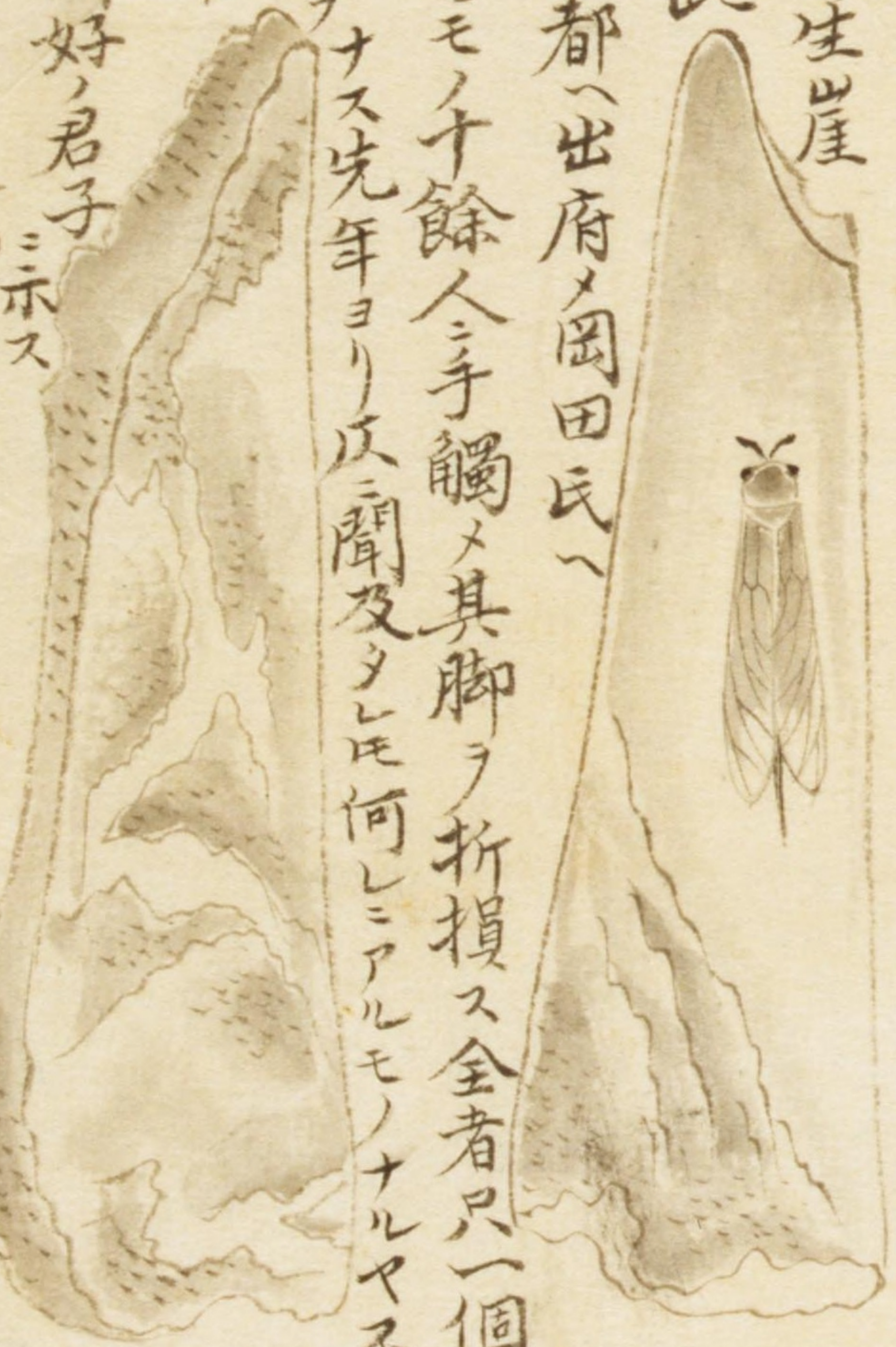
庚申九月廿八日生ニテ獲
之直ニ其真ヲ寫ス
俗ニ呼フ馬尾蜂ノ
一種ナリ



馬尾蜂



獨脚蜂 紀州名草郡檜隈社中ノ一大樹ノ根皮ニ此蜂粘着ス其狀赤蜂ニ似テ狹長ナリ翅ヲタテ
ニテ枯死ス(望スルニ木ヲ以テ形ヲ作りタルカ如シ其翼ノ紋脈ヲホミテ刻鏤セル者ニ似タリ尾尖ニ
針ヲ許出ツ全体ノミニメ脚ヲ唯此木皮厚キニ三分木心ニ通リタルト見テ皮ノ裡ヨリ見六
二分餘ノ脚ノ尖リ出テアリ形棕毛ヨリ太ク強ク赭黒色ニ光沢アリ恰ニ針ヲ以テ木皮上ヨリ
釘スルカ如此蜂之カガミ動揺スルヲ能ハズ遂ニ枯死スルニ至ル此蜂如何ナル神討天譴アリ
知如此嚴刑ヲ受クルモノ如シ紀藩儒生崖
南嶠俗名淳蔵ニ者去々年此地遊テ此
蜂ヲ樹ノ連テ取来リ珍蔵ス去歲東都(出府)岡田氏へ
示ス同氏又余ニ示ス云其樹皮粘着スルモノ十餘人ニ手觸メ其脚ヲ折損ス全者只一個ヲ得テ
小匣ニ珍蔵セルヲ親ク見テ奇異ノ思ヲナス先年ヨリ江ノ關及タレ何レニアルモノナルヤ不知モナリ
蘭山モ見ガレヨシ啓蒙ニモ云ヘリ經年
其遺却セニテラ恐ル因テ略其圖ヲ同好ノ君子
草窓曾過山嘗有獨脚蜂之文云文化乙亥仲冬紀伊公儒官岸南嶠携獨脚蜂來令余判焉余乃
省之與之狀似蜂而其身与翅較長固着于木皮見皮之裏面儼貫純黒一鍼則知陳蔵蓋所註獨
脚蜂而已此蜂人未能詳識也南嶠儒而復能審於品物獨脚蜂亦能隱于深林今在南嶠其
頭馬南嶠之篤於名物可謂逾毛鄭諸儒矣占春竟乃疏之如斯





露蜂房

兩露サラサレタル者薬用ニ入ル





山ハチノ巣 鬼ハチトモ云
初作ルモノ小椀ノ如シ



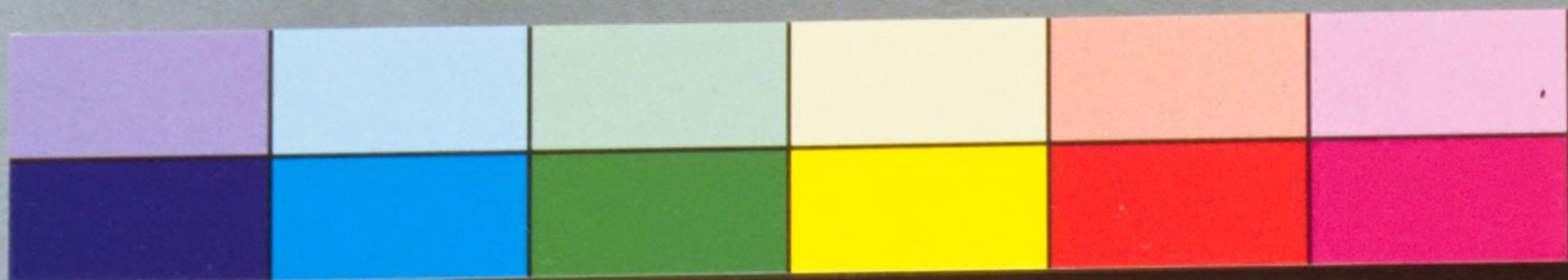


ホウニ種 手觸則有青氣



未如月九日写ス
ホウノ類形鈴虫
ニ似テホウシ不臭
前三足ミフトク
黒シ





椿象 臭椿ニ生ス其虫ニ微シク觸レハ
 青氣アリ久クシテ去ラス草葉新ニ割ニケル
 臭氣ニ似テコロヨリモ酷烈アリ草葉集解ニ
 其氣如斑蝥ト云ハ
 此者ヲ指テ云ナルベシ
 帝京景物略云有
 臭鬻身象鼻而
 貝也大如朱櫻曰
 椿象生臭椿上
 臭不可觸者是



ホウホウキニ
 ツク因テ酸醬ヲ
 ホウツキト云フト
 大和本草ニ云ハリ
 築紫方言ナリ
 東都ニハハニウ
 カウラムシナトモフ



一種異品
 ホウノ乳ニシテ
 背上一角アリ



椿象 脚高シヨク後ニハサル嘴長ク
 内ハ折レテ脊ヨリ見ハス蟬ノ嘴ノ如シ
 青氣アリテ
 至テ臭シ



駿州龍爪山多有嬰子桐上有異虫全身黑色映日紫翠有光加以朱斑燦然耐愛觀然其毒猛烈酷斑蝥云是往年蘭山遊其山所自採者

再按ルニ嬰子桐即油桐ナリ俗名トクエ此油少許食物ハ入レハ腹痛悶乱甚キ死ニ至ル此モ燈油ニシタルモノ山家マアリ煙ヲ吸フニ誤テ此燈火ヲ用テ喉忽ニ鎖閉メ呼吸ナリ難ク死ニ至ルモノアリ此葉ヲ乾テ鼠穴ヲ塞ハ出入セズ細末メ飯上ニ置キ飼ハ鼠死ス大毒アルナリ此葉ニツク出テハ其毒ノ猛烈ナルヲ不辨シテ知ルベシ此虫甲堅ク破壊シ難シ丹色ノ地ニ黒斑アルモノモアリ黒処ルリイロニ光ルモアリ一様ナラズ



カフラムシホウカタキ又カケ會津方言ニハイブリント云フ丸惡臭アリ忌嫌フベキモノヲモ又此名ヲ唱フト云フ



ホウ俗ニハニウト云フ觸則草葉ノ気ヲ

ナス秋月黄藤

上ヨリ落ルモノナリ

肩衣ヲ着セル形ニ似タリ





蚱蟬欲脫也其
 狀如此固抱木
 葉脊裂而出
 甚遲緩以漸而
 自脫



蝥首

如蝟如蟪

蝥首 莊子不
 知春秋之
 蝥首是也
 蝥 小者
 ナツゼミ
 イキレゼミ



ホウニ種 共ニ怒レバ極ク青氣
 草葉ノ氣ノ如シ



下野方言平賀虫ヘリ黒輪ヲ子丹ニ内白ク中
 ノロワリ黒輪クマドル黒輪ノ内白ク白子ホシ
 カクニ五ツアリ背筋トアリノ白ニ白キホシハツ並
 ヒアリアリヒゲ黒シ





蟬ノ地ニ孔ヲ出樹枝ニトリツキ脊上ワレテ脱身ス
 至テ遲緩時ヲ移ス人モシ焦燥^{イラカチ}予ニテ助ケ出セハ
 却テ天理ニ年テ
 生育セズ



翠玉蟬 福州府志 コロモゼミ ハゴロモゼミ

此蟬声ヲ發ルラ聞テ蕎麥ノ種ヲ
 下ス越後ニテツバマキセミト云東都ニ
 ラミシト云

正字通云最大而色黒夏鳴声
 扛者曰蝸曰馬蟬曰馬蜩蝸音絲
 大而有力類廣且方者曰螿曰蜻
 々詩以此婦人之首夏小正鳴蜩一
 名虎縣蜩即螿也





正字通云蟬類不一尔雅
 蟬為蟬之總名蟬通語也
 折言之五采具先諸蟬鳴
 者曰蝦蟇

蚱蟬



蟬母

和名マツムシ
 三月十九日

三二



麦扎虫小而色青者曰蠹曰芽蟬

芽蟬



寒蟬

又寒蟬
 ツクツクホツシ





蟬花

生スルトキ地ヲ掘テ全キ
モノヲ得ヘシ年々産スル
地ニハ七八月ノ頃雨後ニ
リ頭上ヨリ白キモノ一茎
或ニ二茎生スルモノ多シ其
頭尖淡臘脂色ヲ帯タ
リ美ナリ腐クサク湿化タケ
ノ臭氣アリ因テ俗ニセミ
タケト云



二品黄黒色

二品淡赤色

同 異品

乙卯七月蘭苑 増島金之丞 庭園中
樹下年々多生蟬花本年ハ少キヨ
シ松ナカラニ三茎ヲ得タリトテ
贈モノナリ長茎三四寸ノモノハ甚
半ヨリ七茎ニ分極アリ實ニ奇品
トス



二品深赤色

トンボムシ



アカトシホムシ





蜻
蜓
二
種



蜻
蛉



胡
黎





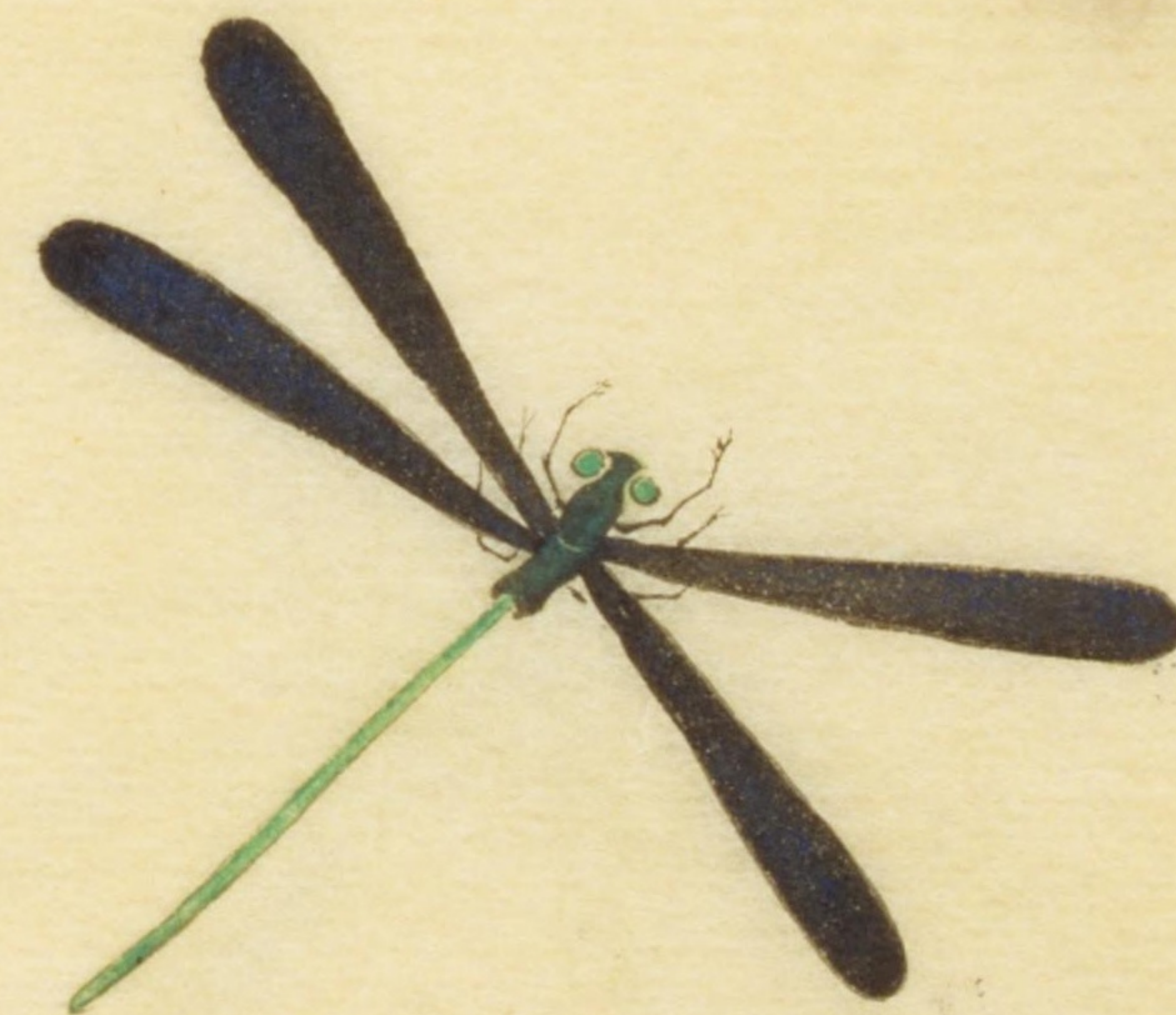
蜻蛉
 一種青黒ノ者和名シホカラトンボ
 尾端白者塩ウリ



赤卒



紺螿



イトニンボ



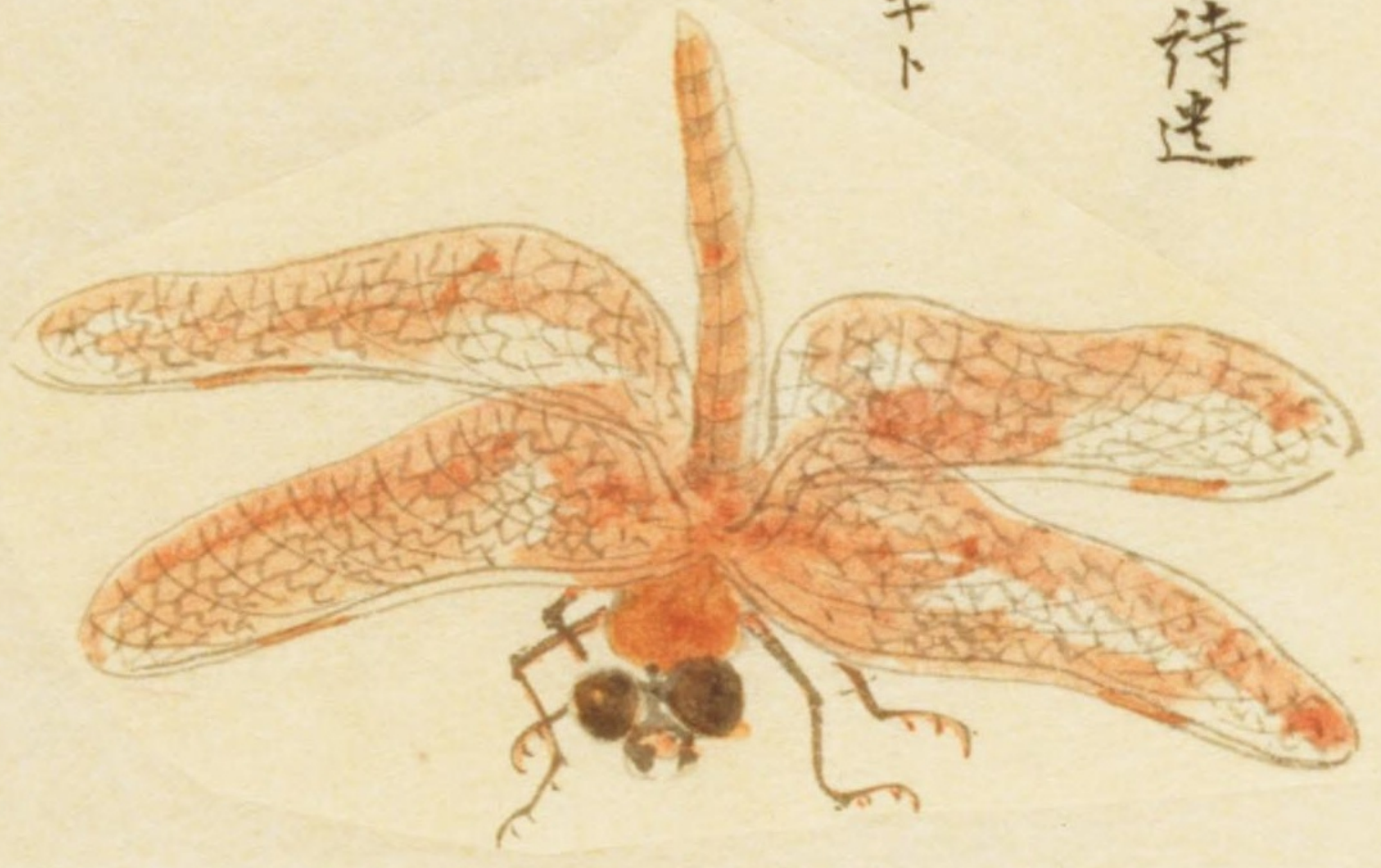


蜻蛉一種小而黃者名胡黎
俗名赤衣使者アカトシホ



紅蜻蛉 初物待達
猩々

七月十六日ヨツギト
云処ノ水邊ニテ
得タリ



甲子六月念六写之
碧色白ミアリ尾短
カキ方ニ平タレ



螭正字通
音持
一名絳縗
福州府志絳縗
一名赤弁丈人





豆娘

ワカシエトシホ
ヒメトシホ



青ヤシマ
青鷗娘
福州有志

ホタルタマシ蠅ノ一種也螢ニヨク似タリ羽黒ク蠅ノ翼ノ如ク筋脈ヨクミハ
アリ飛テ至テ遅鈍ナリ柔弱ナルモノニテ手ニトレバ早クヨハルモノ也指ニ
黒粉添ル三月ノ頃出ル

虫ノ類二種

上図背浅キイロニ
光ル

ホタルモトキ 文政四年乙酉年
六月十四日 土用前 西九ヨリ監定
セヨトノ
今アリ中山内迄頭鶴殿藤三
郎ヨリ手紙ニテ申来ル



十四年以前文化五辰ノ六月廿七日ニトリ
写名出ト同物ナリ土用ニ入ル日ナリ一休
ノ價、堅シ六足短シ其アリタタミテ今
ニカクヒヒケラ伸タル片不動即頭虫ニモ似
タリノメウキ虫ヨリ扁タシ腹ニ足ヲ置モ
込タル片木ニテ彫刻シタルカ知形螢ニ
似タリ脊ニ甲アリ飛テラセテ天舞ヲ成
色ノ如ク光ナレヨクミハ細條アリ形至
テ柔ニテ横ニ断紋アリ又手ニ觸レハ六
脚タミ込テナキガ如シ



10
19

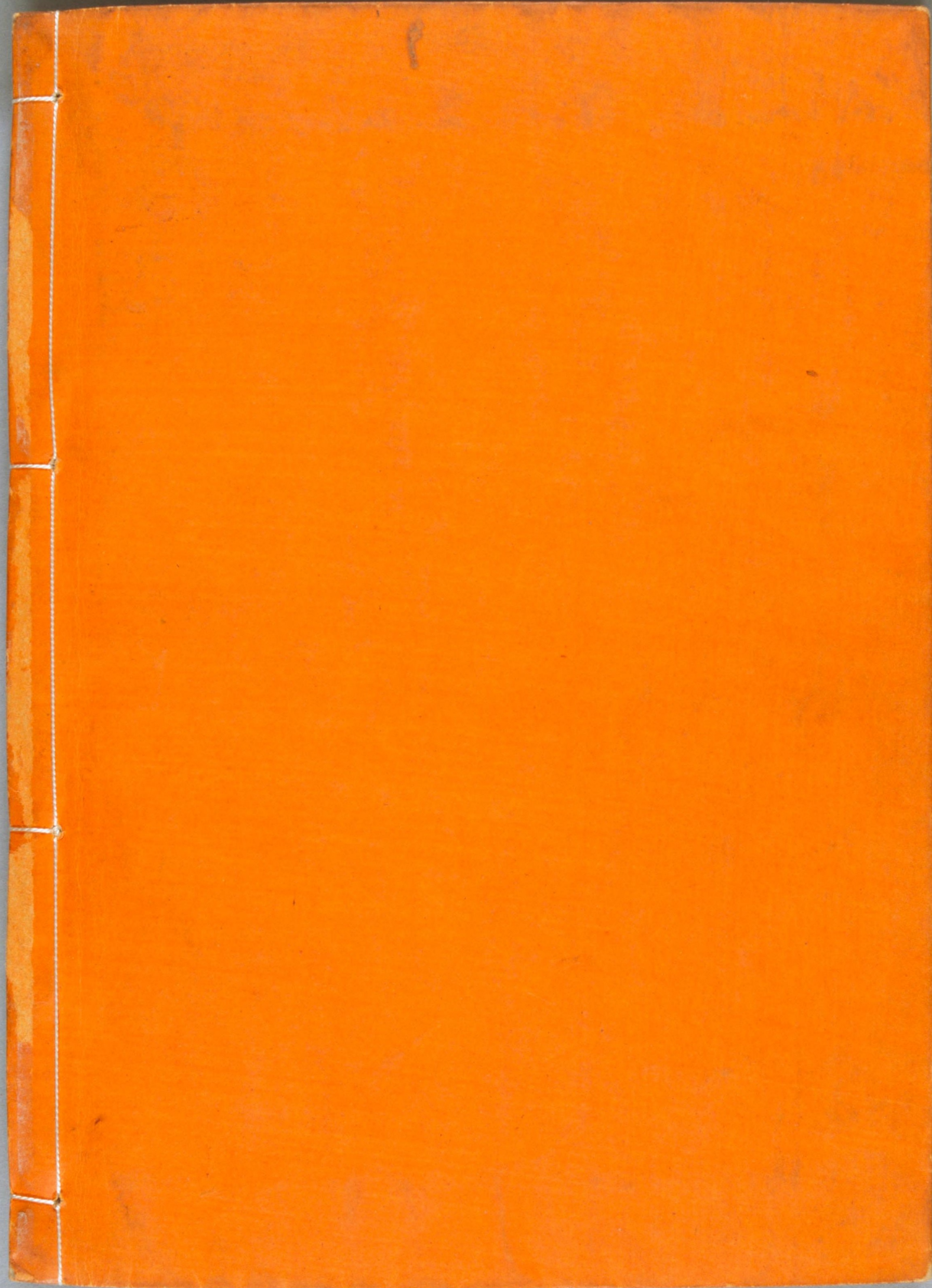
石蟻 昌滅按本綱石蟻條下藏器云石蟻一名
石下新伊洛開水底石下有之狀如蚕云々山堂肆考
謂之石下新婦弘景云云形如老蚕儻人得而食之蘇
恭曰石蟻形似蚕有角青黑色保昇云此虫水石間
有之取為釣餌馬湖石門最多彼人啖之トアリ此數
說ノ中老蚕ノ如ク人取テ食之トイハル此孫太郎與ナ
ル此物淺流中大石ヲ起シテ其下ニアリ水底石
下有之ト云洗能符合ス故三石蚕ト云フ穩當ナリト
スベシ其一種砂石ヲ綴テ渠トシ身ヲ其中ニカク
モノヲ大黒虫ト云又セムシト云モノアリコハ石上ニツク釣
餌ニ用ユレ人取テ食フヘキモノニ非ス皆是
石蚕ノ別種ニシテ河ニ入ルモト全ク別ナリ
コニ因スルモ河中ニテ人誤テ踏ハ立ニ咬傷
ス其傷忍ヘカラス蜈蚣傷ト同シ故三人ニカ
螫傷ヲ恐ル因テ川ムカテ氏云ハルヨシ

孫太郎出乾枯者
得之寫之真州艾
田郡越河村流水中
ノ産春夏ニ取乳
江都ニ贈ル小兒ニ次
食ハシメテ虫癬瘡疾
ヲ治全喝ノ功アリト云
傳フ

龍虱一種羽州米沢
産ナリ方言ガハ水中
ニ産ス俚人醬油ニテ煮
ツケテ焙リ食味美ナ
リト云

明和四年丁亥四月十日仙臺
彦ヨリ來ル真州犀川ノ孫太
郎出ト云又犀川虫氏云小兒
醬油ニミタシ焙リ食フ味
饒饒ノ如ク美ナリ專五
疳虫氣ヲ治ト云九香虫
一種ナリ





栗氏千虫譜 10冊 寄別6-4-2-1 03-034

国立国会図書館

